

生産者の声

JAが取組む「自己改革」を実感

JAくまがやでは「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指し、営農相談員（TAC）が中心となり、新規就農希望者からベテラン農業者まで幅広い支援を行っています。JAを利用した生産者の「生の声」をお届けします。



農業系ベンチャー企業で
ノウハウを身に付け
条件に合う
熊谷市で独立営農

JAくまがやの営農相談員
（TAC）のサポートを
受け、新規作物の導入や
融資を実行

将来の展望

農業系ベンチャー企業でノウハウを身に付け 条件に合う熊谷市で就農

大阪府出身の松原さんは小さいころから農業に興味を持っていました。

社会人経験を2年半積んだ後、農業に関する生産技術や農業経営を学ぶため農業系ベンチャー企業に就職。生産のほかに営業や設備の施工などを経験し独立を目指しました。

ベンチャー時代の同僚に勧められ、日照時間が長く雪が少ないなど条件が良かった

熊谷市での農業経営を決意。2020年から独立営農をはじめました。

ベンチャー時代の経験を活かしハウス内の内装やカーテン、栽培ベンチは自作。通常かかるコストに比べ約10分の1程度の費用に抑えました。現在は、養液栽培と隔離土耕をプラスした栽培方法で、キュウリ20アール、トマト10アール等を従業員12人とともに生産しています。

JAくまがやの営農相談員（TAC）のサポートを受け、新規作物の導入や融資を実行

JAくまがや東部営農経済センターの営農相談員（TAC）の石橋友輔職員は、担い手に出向く活動として、頻繁に松原さんのもとを訪れています。

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目的に、新規作物としてラグビーボール型カボチャ「ロロン」やブロッコリーの生産を松原さんに提案しました。



令和6年9月には、農産物の運搬用の車両の購入を考えていた松原さんにJA農機ハウスローンを紹介し実行。現在もハウスの増設を考える松原さんから融資の相談を受けています。

松原さんは「病害虫の対策方法など営農系の情報共有のみならず、資金面についても話に乗ってくれるので助かっている」と話します。



将来の展望

松原さんは新たな果樹の取り組みとしてイチジクの生産を試験的にはじめました。

松原さんは「石橋さんをはじめとするJAの協力を仰ぎながら本格的な生産に向けて進めていきたい」と話します。

JAくまがやは引き続き松原さんを様々な角度からサポートしていきます。

hachi.farm株式会社
代表取締役

松原 大己 さま

事業内容

農産物の生産と販売
○キュウリ・トマト・ズッキーニ・トウモロコシ
ニンニク・アスパラガス等

Field Notes

私が担当する管内の中でも若手の松原さん。設備を自作することで費用削減を図っており、私自身も勉強させていただく

とが多くあります。

そのような中、JA担当者として松原さんをはじめとする生産者のためになる提案ができないか常に考えております。

今回は新規作物の提案や、融資のご案内をさせていただき、少しではありますが、農業経営のプラスになれたかなと感じております。

今後も生産者のニーズにあった提案ができるように、日々努力してまいります。

JAくまがや 東部営農経済センター
営農相談員（TAC） 石橋友輔

